PL　今、日本薬学会がなすべきこと

Strategic Plan for the Pharmaceutical Society of Japan in 2013

柴崎　正勝（Masakatsu SHIBASAKI）
微化研（Institute of Microbial Chemistry）

二度目の日本薬学会会頭に就任する柴崎でございます。極めて困難な時期にある日本の薬学をリードする学会の会頭として何を成すべきか、何に重点をおいて努力をすべきか、頭の中が整理されていないのが現状であります。無責任な発言と非難されるかもしれませんが、それ程問題が山積しているという事であります。以下に現時点でわたしが考えます努力目標を記させて頂きます。

１．日本薬学会の会員の減少傾向をいかに食い止めるか。

会員数は多ければ多い程良いという考えには賛否両論があろうとは思います。しかし現在の会員数、約２万人弱が数千人規模で減少してしまう可能性を少しでも改善すべく行動したいと考えます。そのための方策の一つとしては、薬学部出身者以外の方々の会員数を増やす努力だと考えます。もう一つの方策としては、日本薬剤師会や日本病院薬剤師会との真の連携を強化する事であります。

２．基礎系薬学分野、医療系薬学分野の教育研究をいかに充実させるか。

全国数多くの薬学系教員から現状は極めて厳しいとの悲鳴にも似た声をよく聞きます。本来、６年制薬学教育は、考える能力のより高い薬剤師を社会に輩出すべく始まったものと理解しております。しかし生みの苦しみとは思いますが、実際は逆の方向に動いている気がしてなりません。考える能力の向上にとって最高の方法は、研究活動であると断言出来ます。６年制のカリキュラム改訂を通して、学生が研究にエネルギーを注げる時間を少しでも増やせるよう努力したいと思います。

３．４年制教育を今後どのように位置づけるか。

４年制教育の位置づけに関しては、様々な見方がされているのは事実です。私は、創薬研究者養成コースと、現在は位置づけております。御承知のように、このコースの学生にも（困難はありますが）薬剤師受験資格は残されています。近い将来、この受験資格は撤廃されることになっています。この撤廃の妥当性について、厚労省、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、製薬業界の方々との議論を開始したいと考慮中であります。

会頭が成すべきほんの一部の努力目標について、ごく簡単ではありますが整理してみました。２０１３年３月末の会頭講演までには、さらなる方向性の整理を図りたいと思います。